

第2学年 国語科学習指導案

2組 計22人 (男子9人, 女子13人)

指導者 松山 美香

1 単元 「お話、大すき」

(教材「お話がいっぱい」, 「こんなお話を考えた」 光村2年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、これまでの学習や日常の読書活動を通して、昔話や童話などの易しい読み物を読むのに慣れてきている。書く活動においては、観察や取材で発見したことなどについて、簡単な組立てを考えて文章を書いたり、動作化や劇化を取り入れて、想像を広げながら登場人物の気持ちや周りの様子について書いたりする学習もしてきている。

そこでここでは、読み聞かせなどによって絵本などの易しい読み物に親しんだり、相手意識・目的意識をもって楽しんで書いたりする態度を育てることをねらいとした単元を設定した。

教材「お話がいっぱい」は、様々なお話のブックトークを基に、教師の読み聞かせを聞いたり、自分の気に入ったお話を読んだりするようになっており、子どもたちの読書意欲を引き出すことができる。また、教材「こんなお話を考えた」は、三枚の絵を基にして想像を広げながら絵本作りをするものであり、両教材ともお話の世界に浸ることができるということから、この時期の子どもたちにとってふさわしい教材であると考ええる。

本単元で子どもたちは、読み聞かせや本の紹介によって、絵本などの易しい読み物にふれることで、お話の世界に浸り、お話のおもしろさを味わうことができる。その上、読後の感想を互いに交流させることで、お話の様々なおもしろさに気付くこともできる。また、三枚の絵を基にして、場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げ、お話を考えることで、楽しみながら「はじめ・中・おわり」の構成を意識したストーリーを考えることができる。さらには、自分が考えたお話を基に世界で一冊の絵本を作り、できあがった作品を友達と読み合う活動や、図書室に作品を展示することで、相手意識・目的意識をもって書くことの楽しさを味わうことができる。加えて、事柄の順序を考えながら、語と語、文と文との続き方に注意して書く力を身に付けるとともに、句読点やかぎ(「」)の使い方などを改めて理解し、文の中で正しく使う力を養うことができる。

そして、ここでの学習は今後、目的に応じていろいろな分野の読み物を読もうとする態度や、段落相互の関係などを工夫して文章を書く能力を養う学習へとつながっていく。

(2) 単元の目標

- | | |
|--|-------------------|
| ○ 楽しみながら絵本などの易しい読み物を読んだり、お話を作ったりしようとしている。 | 【国語への関心・意欲・態度】 |
| ○ 想像を広げながら、簡単な組立てを考えてお話を書くことができる。 | 【書く能力】 |
| ○ 場面の様子や登場人物の気持ちについて、想像を広げながら読むことができる。 | 【読む能力】 |
| ○ 句読点やかぎ(「」)などを文の中で正しく使うとともに、主述の関係に注意しながら文を書くことができる。 | 【言語についての知識・理解・技能】 |

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、これまでの学習の中で、ペアやグループで話し合ったり考えたりする経験をしてきている。その際、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりすることによって、「一人で考えるよりもいろいろな考えが思いつく」といったよさを感じたり、「友達に教えるのが楽しい」といった喜びを味わったりしてきている。学級の雰囲気については、多くの子どもたちが自分の考えを自由に言える雰囲気であると感じている。しかしながら、普段の授業の様子を見ていると、自分の考えを進んで述べようとしたり、友達の考えのよさを積極的に見つけて褒めようとする姿が、学級全体に広がっているとはいえない。

イ 本単元の内容にかかわる実態

- 本をよく読みますか。また、どんな本をよく読みますか。(本の種類については複数回答)
よく読む(20人) ……絵本(18人)、シリーズものの本(かいけつゾロリシリーズなど)(13人)、クイズやゲームの本(7人)
動物などの図鑑(5人)、料理の本(4人)、詩(2人) など
あまり読まない(2人)
-
- 文を書くことは好きですか。(内容は複数回答)
・好き(15) ……書いていると想像が膨らんで、いろいろな文が浮かんでくる(10) お話を自分で作ることができる(3) 字を書く練習になる(3)
・あまり好きではない(7) ……うまく文が書けない(5) 字がうまく書けない(4) 手が疲れる(1)

本学級の多くの子どもたちは、国語科の学習が好きであり、「いろいろな答えがある」、「楽しいお話がたくさんある」などといった国語科の学習のおもしろさに気付いており、楽しみながら意欲的に学習に取り組んでいる。

読むことの学習については、これまでの学習の中でグループでの劇や絵本作り、音読発表会などを経験し、楽しかったと感じている子どもが多い。また、お話の続きを考えることや登場人物の気持ちになりきることなど、想像しながら読み進めたり、声に出して読んだりする楽しさを感じている子どももいる。また、読書に対する興味・関心は高く、多くの子どもたちが図書室をよく利用し、読んだ本について話す姿が見られる。しかし、日頃の読書の様子からも読む本に偏りがあり、想像を広げながらお話の世界に浸ることのできる絵本より、図鑑や迷路などの本の方を好む子どももいる。

書くことの学習については、自分の思いや考えを文章に表す楽しさを感じている子どもが半数以上いる一方、適切に表現できなかつたり、表記を気にするあまり書くことへの抵抗を感じたりしている子どもも3割近くいることが分かる。

言語に関する実態については、日ごろの学習の様子からも、読書感想カードや日記、短文作りを楽しんでいる子どもが多い。しかし、主述の関係や事柄の順序がきちんと照応していない文を書いたり、長音や拗音、促音などの表記や助詞の使い方が適切でなかつたりする子どもも見られ、言語事項の定着が十分とは言えない。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように以下の点に留意して指導していく。

「つかむ」過程では、教師がブックトークをすることで、読書に対する意欲を高めることができるようにする。また、読み聞かせをしたり、気に入った本を紹介し合ったりすることで、様々なお話のおもしろさを味わわせるとともに、読書意欲を高め、意欲的に学習を進めていくことができるようにする。また、読書コーナーには、絵本などの易しい読み物を常時準備しておき、並行読書ができるようにすることで、いろいろなジャンルの本を読もうとする意欲へとつなぐことができるようにする。

「深める」過程では、子どもたちの高まってきた読書への興味・関心を生かして学習が進められるように、今後の学習でやってみたいことを基に学習計画を立てるようにする。そして、学習したことを生かして世界で一冊の絵本作りに取り組み、できあがった作品を友達と読み合う場「2年2組・にこにこ図書コーナー」を設置する。また、学校図書館に作品を展示することを知らせ、相手意識や目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。加えて、共通の課題である三枚の絵を基に、想像を広げながらお話を作る活動を進めていくようにする。その際、想像を広げながら自分のお話を場面ごとに考え、分かりやすく伝えることができるよう、挿絵や吹き出しなどがついたワークシートを準備し活用する。

「味わう・高める」過程では、自分が考えたお話を基に世界で一冊の絵本を作るという設定にし、活動意欲を高めることができるようにする。

「まとめる・広げる」過程では、「2年2組・にこにこ図書コーナー」にて、できあがった作品を友達と読み合い、感想を伝え合うようにすることで、絵本を作り上げた成就感を味わわせることができるようにする。また、完成した絵本は学校図書館にも展示し、他学年の子どもも読んで、感想をカードに書くようにすることで、他者評価によって意欲を更に高めることができるようにする。

4 指導計画（全16時間）

●は研究の視点に関する内容（①は視点1，②は視点2）； は評価項目及び評価方法

過程	時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
つかむ	3 (本時3/3)	1 ブックトークや読み聞かせを聞き、自分の気に入った絵本を読む。 2 自分の気に入った本を紹介し合う。	① お話の書き出しや主人公の紹介など様々なパターンでブックトークをすることで、読書に対する意欲を高めることができるようにする。 ① 教師による読み聞かせや、子ども同士で気に入った本を紹介し合うことで、様々なお話のおもしろさを味わわせるとともに、読書意欲を高め、意欲的に学習を進めていくことができるようにする。 楽しみながら絵本などの易しい読み物を読もうとしたか。(観察) [国語への関心・意欲・態度] 場面の様子や登場人物の気持ちについて、想像を広げながら読むことができたか。(観察、読書感想カード) 【読む能力】
	5	3 学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 世界に一冊だけの絵本を作り、「2年2組・にこにこ図書コーナー」で読み合おう。 4 「こんなお話を考えた」の絵を基に絵本作りをする。 ○ 三枚の絵から想像を広げ、「はじめ・中・おわり」の簡単な組立てを考える。 ○ 場面ごとのお話を文章に表す。 ○ 推敲する。 ○ 絵本を仕上げる。	① 目的意識をもって取り組むことができるように、「2年2組・にこにこ図書コーナー」を設置したり、学校図書館に作品を展示したりすることを知らせる。 ○ 三枚の絵を基にした参考作品を提示することで、絵本作りへの意欲を高めることができるようにする。 ② 想像を広げながら自らお話を作ることができるように、挿絵や吹き出しなどが付いた場面ごとのワークシートを活用する。 ○ 三枚の絵を基に想像を広げながらお話を考え、発表し合うことで、互いの考えを交流することができるようにする。 ○ 教科書の作例を読み、表現の工夫を見付けることで、自分のお話作りに生かすことができるようにする。 ○ 推敲する際に観点を示すことで、その観点に沿って読み返すことができるようにする。
味高 わめ うる	6	5 世界で一冊だけの絵本作りをする。 ○ 登場人物や話の粗筋を考える。 ○ 挿絵になる場面を考える。 ○ 話を考える。 ○ 推敲する。 ○ 絵本を仕上げる。	② 登場人物などお話作りに必要なことを整理できるワークシートを準備し活用することで、簡単な組立てを基にお話を考えることができるようにする。 ○ お話の基となる挿絵をいくつか準備することで、想像を広げながらお話を書くことができるようにする。 「はじめ・中・おわり」の簡単な組立てを考えて、お話を書くことができたか。(作品・ワークシート・発表) 【書く能力】 友達の作品のよさやアドバイスを自分の作品に取り入れながら絵本を作ろうとしていたか。(作品・ワークシート・観察) 【書く能力】 文の中で句読点やかぎなどを正しく使うことができたか。(作品・ワークシート) [言語に関する知識・理解・技能]
	2	6 「2年2組・にこにこ図書コーナー」に作った作品を展示し、互いに読み合う。 7 感想を出し合い、学習のまとめをする。	○ できあがった作品の展示の仕方を工夫することで、子どもたちが自由に本を手に取り、読み合うことができるようにする。 ② できあがった作品を友達と読み合う際には、感想カードを準備し、観点に沿って相互評価ができるようにする。 自分や友達の作品の面白さやよさを味わうことができたか。(観察・読書感想カード) 【読む能力】

5 本 時 (3 / 16)

(1) 目 標 お気に入りの本を工夫して紹介したり、友達の本の紹介を聞いたりすることで、読書意欲を高めることができる。
 (2) 展 開 教師の言葉かけ 予想される子どもの反応 重点評価項目 ◆重点評価項目を受けての指導

●は、研究の視点に基づく指導・支援 (①は視点1, ②は視点2)
 主な学習活動と予想される子どもの反応

教師の指導

過程(分)		
つ	1 前時までの学習を想起する。	○ 前時までの学習を想起することで、様々なお話のおもしろさの観点を全体で確認し、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
か	前の時間にどんなことを学習しましたか。	○ お気に入りの本を紹介し合う際には、これまでの学習で経験してきた様々な表現方法から自分で選択し、本のおもしろさを分かりやすく伝えることができるようにする。
む	今日は、これまでに読んだ本の中で、自分のお気に入りの本について紹介し合ひましょうね。	○ 友達により分かりやすく伝えることができるように、紹介する順序や内容、お気に入りの理由などを事前に示しておくようにする。
(5)	2 学習課題を確認する。	
深	お気に入りの本を紹介し合って、読みたい本を見つけよう。	お気に入りの本を工夫して紹介したり、友達の本の紹介を聞いたりする中で、読書意欲を高めることができたか。(観察) [国語への関心・意欲・態度]
め	3 学習の進め方について確認する。	◆ 友達の本の紹介を聞いて、本への興味が高まった子ども
る	自分のお気に入りの本を、自分の好きな方法で、グループのみんなに紹介しましょう。そして、どの本を読みたくなったか、話し合ひましょう。それから最後に、先生のお気に入りの本の読み聞かせを聞きましょう。	→ なぜ読みたくなったのか、理由を分かりやすく説明できるようにする。
(15)	4 自分のお気に入りの本について紹介し合う。	◆ 紹介された本の中身に目が向いていない子ども
	グループごとに分かれて、お気に入りの本を紹介し合ひましょう。	→ 「どんなお話なのか」、「なぜお気に入りののか」に着目しながら、発表を聞いたり、質問したりすることができるよう助言する。その際、わかったことやわからなかったことを整理して、感想をまじえて述べるようにする。
味高	5 紹介し合った本を読んだり、本について語り合ったりする。	◆ 本の紹介がなかなかうまくできない子ども
わめ	本の紹介が終わったグループは、お友達のお気に入りの本を読んだり、本を手にとり語り合ったりしましょう。	→ お話の大体やお気に入りの理由を教師と一緒に整理したり、発表原稿を基に発表の練習をしたりして、お気に入りの本を分かりやすく紹介できるようにする。
(15)	○ ○ ○ さんの本、ちょっと読ませてほしいな。 ・ ぼくが気に入っている場面はね、ここにあるんだよ。 ・ このお話、すごくドキドキしておもしろいなあ。	② 他の考えを認める雰囲気や学級全体を広げるために、友達の良い考えを意欲的に見付けて褒めている子どもを称賛する。その際、理由を付けて発表できるように話型を示すようにする。
ま広	6 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。	○ 本時の学習を振り返る際に、評価の視点を基に自己評価・相互評価をすることで、学び合いのよさを実感することができるようにする。
とげ	今日の学習で、どの本を読みたくなりましたか。	○ 次時は、今後の学習計画について話し合うことを伝え、意欲を高めることができるようにする。
める	○ ○ ○ さんの本だよ。少し読んだら、主人公のしたことがとてもおもしろかったんだ。 ・ ○ ○ ○ さんの本を読みたいな。読んだことがあっても、紹介を聞いてまた読みたくなったよ。	① 本時の学習の最後に、教師がお気に入りの本の読み聞かせをすることで、子どもたちの読書意欲が更に高まるようにする。
る	次の時間は、これからどんなことを学習していきたいのかについて、みんなで話し合って計画を立てましょうね。楽しみですね。	
(10)	最後に、先生のお気に入りの本の読み聞かせをして終わしましょう。	